

第1回 教育振興審議会議事録

20/8/19 13:30 生きいきプラザ

協議事項

「適正規模・適正配置・適正な通学距離・適正時期」全体について発言を求めた。下記のような発言があった。

・少子高齢化が急激に進む中で、子ども本意の学校再編成でありたい。その手段としての統合はありうると考える。

・子供は大人たちが守るべき弱い存在ではなく、一緒に街づくりをやっていく同志であると思います。大人たちや行政の都合でなくその子供たちにとって一番いい方法を探していきたい。

・大きな学校に通うよりは、地域の学校で子供たちを育てたいと思う気持ちがあるので、そういうところから、適正規模を導き出すのはとても難しい、地域に行っているんな意見を聞くと自分の意見を見失ってしまうと思うので、審議会としての意見をまとめ、それを地区にもっていく。適正規模、適正配置ではなく、伊豆市モデルをつくる。

・統廃合ではなく、適正配置として審議していく。

先送りできない問題である。

・天城地区の保育園を3園一緒にしてもいいと思うが、持越、長野地区が遠くなってしまうし、今まで歩いて通園できていた地区ができなくなってしまう。湯ヶ島幼稚園はまだ建設して日が浅いので無くしてしまうのはもったいないと思う。

・該当になっている地区、たとえば中伊豆地区なら、大東小学校地区の親の意見を聞いたほうがいいのではないか。先に地区集会を開いたほうがいいのではないか。

・平成18年に意見を聞いたのにうまくまとまらなかったのもまたやるのか。

子供のことを第一に考えて協議をするといっても、該当地区の親を説得し、理解してもらうことが必要ではないか。

・複式学級になる学校が、大きい学校に吸収されるのではなく、伊豆市全体を再編成すると考えていく。したがって大きい学校の名前や校歌が必ずしも残ると考えず、地域で検討する。

・保護者から意見を聞いてその中から統合を考えたほうが良いのではないか。

・統合にあたっての学校教育、その地域でできる地域教育、新たな将来を見据えての教育をすることであれば保護者が理解、興味を示すのではないか。

・むかしのよう、田舎教育というか、特色性のある教育で子供を育てたいという親もいるのではないか。

・地域の平等性が欠けていると思う、いろんなことに修善寺が優先的で、学校も土肥が小さいから合併しなさいでは、理解はもらえないと思う。

・小規模な学校のデメリットの中に部活動などの選択肢が少ないとあるが、資料から土肥地区の0歳児の出生数をみるとこれでは部活動が成り立たないのではないか。

・教員は、統廃合や適正規模、配置について伊豆市として正式の場での話し合いはしていない。18年に統廃合の対象になっている地域の保護者から話を聞いたことは知っている。

適正規模、適正な通学範囲はこどもにもあるが、教師を育てる上でもあると思う。学校という組織は、子供と教職員も育たないと良い学校にならないと思う。ただ人数だけで切っても伊豆市の地理的なことも考え、細かいことに配慮しながら話し合わないといけないと思う。たとえば、学校から遠い子は通学時間が負担になってしまう。

・小さい学校は子供同士が、小さいときから一緒に、話をしなくても、わかりあってしまう。子供は、大勢の中で、分かり合えないから、いろいろ学びながら成長すると思う。教師と子供と近くなりすぎて、信頼と尊敬が欠けてしまう。切磋琢磨し、子供の個性を損なわない人数は、25人前後だと思う。

・子供の数が少ないと子供と親の顔まで覚えられ、良いところもあるが、少ない子供を、男女に分けるとさらに少なくなり、遊ぶ相手がいなくなってしまう。大勢の中で、多少のトラブルがあっても、それを解決して成長できる。